

コウノトリ



毎週月曜日更新

# カタカタ通信

第220号

「知れば知るほど気になるコウノトリ」 2026年3月16日

コウノトリを見ていると、「どうしてなんだろう？」と思うことがたくさん湧いてきます。

「どうしてくちばしをカタカタ鳴らすの？なんで鳴かないの？」

「なんで2卵目を産むまであまり卵を抱かないの？卵が冷えても大丈夫なの？」

「産卵が始まってからの交尾でも受精するのかな？」

今回は、そんな少しディープな疑問に答えてみようと思います。

## ①「どうしてコウノトリは鳴かないの？」

コウノトリといえば、くちばしをカタカタと鳴らすクラッタリングを思い浮かべる方も多いと思います。

コウノトリは鳥の発声器官である「鳴管（めいかん）」があまり発達していません。そのため成鳥は、他の鳥のような鳴き声を出すことがほとんどありません。

では、なぜそのような体のつくりになっているのでしょうか。

その理由をはっきり分かっていませんが、コウノトリは群れを作らず、基本的にペアや単独で生活する鳥です。また、湿地など見通しのよい環境で暮らしています。こうした生活のため、鳴き声よりも姿や動き、くちばしの音によるコミュニケーションが発達してきたのではないかと考えられています。

ただし、まったく声を出さないわけではありません。空もめったにありませんが、巣を守っているときには「フーフー」という感じの声を出して威嚇します。また、ヒナは「ピーギャーピーギャー」と鳴いて親に餌をねだります。同じコウノトリでも、成長段階によってコミュニケーションの方法が違うのも面白いところですね。



クラッタリングする花

## ②「産卵が始まってからの交尾でも受精するの？」

コウノトリの繁殖を見ていると「卵を産み始めてから交尾して意味があるの？」と疑問に思う方もいるかもしれません。

実は、産卵が始まってからの交尾でも受精する可能性はあります。

鳥では、排卵から産卵までにおよそ1日かかります。そのため1卵目の産卵があった後でも交尾が行われれば、その後に排卵する卵が受精する可能性はあります。

また、鳥のメスの体内には精子貯蔵管という器官があり、精子をしばらく保存することもできます。

こうした仕組みもあって、繁殖期には何度も交尾が行われていると考えられています。

### ③「なぜ2卵目を産んでから本格的に抱卵するの？」

コウノトリは1個目の卵を産んでも、すぐにしっかり抱き始めるわけではありません。多くの場合、2個目の卵を産んでから本格的な抱卵が始まります。

これはヒナの孵化のタイミングをできるだけそろえるため、と考えられています。もし1個目の卵から強く温めてしまうと、ヒナの孵化時期に差が生まれてしまいます。ヒナは、早く生まれたものほど体が大きく、エサをもらうときにも有利になります。孵化のタイミングに差があると、あとから生まれたヒナがエサを十分にもらえず、弱ってしまうこともあります。そこで、2個目の卵が産まれてから抱卵を始めることで、ヒナたちの孵化のタイミングを近づけているのです。



現在4つの卵を抱く花

でも、コウノトリにはまだよく分からないこともあります。

例えば巣作りのとき。空はよく巣材を運んできますが、それを組み直して巣の形を整えているのは、どちらかというとな花のほうです。まるで「運ぶ係」と「組む係」に分かれているようにも見えます。

こうした役割分担が本当にあるのか、それともたまたまそう見えるだけなのかは、実はよく分かっていません。

コウノトリを見ていると「どうして？」と思うことばかりです。まだまだ不思議がたくさんあります。知れば知るほどナゾが増える。それがコウノトリの魅力なのかもしれません。

これからも空と花を見守りながら、コウノトリの「どうして？」をたくさん見つけていただけたら嬉しく思います。



巣に座る花を巣材で埋めてしまう空



気になったのか 立ち上がる花

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター  
飼育担当：ほっぴー